AIスキル・資格トレンド2026

難易度・実務評価・職種別に徹底比較



Start Challenge Consulting co., ltd.

発行日：2026年8月／ホワイトペーパー（全11ページ）

CONFIDENTIAL — 社外秘

Start Challenge
Consulting co., ltd.
挑む力が、世界を照らす

2026年、AI人材に求められるスキルの変化

評価の基準は「プロンプトが書けること」から「AIを既存業務へ実装し、安全に運用できること」へ移行しており、**資格単体ではなく「資格＋実装実績」**が採用・案件獲得の判断材料となっている。

2026年の主な傾向

- プロンプト作成だけでは差別化しにくくなった
- AIエージェントを業務プロセスに組み込むスキルが重視される
- RAG・API・MCP・データ連携の需要が増加
- PoCで終わらせず、本番環境へ実装・運用できる人材が評価される
- AIガバナンス・セキュリティ・個人情報管理が必須知識になる
- 資格単体より「資格＋実装実績」が採用・案件獲得で評価される

2026年に伸びる人材領域

1. AIを業務に活用できるビジネス人材
2. AIエージェントを設計できる人材
3. RAG・API連携を実装できるエンジニア
4. AI導入を管理できるPM・コンサルタント
5. AIリスクを管理できるガバナンス人材

解釈：資格制度の設計変更（実践課題型試験の増加）および求人要件の記述傾向から整理／仮説：実装実績の重視は2026年以降さらに進む（仮）

AIスキルの全体マップ — 5領域と難易度の基準

AIスキルは「基礎知識・ビジネス活用・開発実装・データ／機械学習・ガバナンス」の5領域に整理でき、職種によって必要な領域と到達レベルが異なるため、資格選定は領域の特定から始めるべきである。

スキル領域	主な内容	対象者
AI基礎知識	AI・機械学習・生成AIの基本概念、リスクの理解	全職種
ビジネス活用	業務選定、プロンプト設計、効果測定	営業・企画・管理職
AI開発・実装	API連携、RAG、AIエージェント構築	エンジニア
データ・機械学習	Python、SQL、統計、モデル開発	データ人材
ガバナンス	法務、セキュリティ、リスク管理	管理職・PM・法務

難易度の見方（本資料共通）

レベル1 ★☆☆☆☆	レベル2 ★★☆☆☆	レベル3 ★★★☆☆	レベル4 ★★★★☆	レベル5 ★★★★★
入門	**初級**	**中級**	**上級**	**専門家**
用語と基本リスクを理解	基礎知識を体系的に説明	実務で分析・設計に着手	本番実装・運用を担える	高度理論・基盤設計まで

解釈：スキル領域および難易度レベルは、本資料が各資格の出題範囲・想定対象者をもとに整理した独自区分／提案：まず自職種の必要領域を特定し、到達レベルを定めた上で資格を選定する

国内の主要AI資格と難易度

国内資格は入門（生成AIパスポート）から専門家（統計検定準1級以上）まで難易度が5段階に分布しており、**G検定＝AI全般の理解、E資格＝深層学習の専門性**という役割分担で選定するのが基本となる。

資格・検定	難易度	主な対象者	評価される知識
生成AIパスポート	★☆☆☆☆	AI初心者・一般社員	生成AIの基本、リスク
JDLA Generative AI Test	★★☆☆☆	ビジネス職・IT職	生成AIの基礎と活用
G検定	★★☆☆☆	企画・コンサル・管理職	AI・機械学習全般
Python 3 エンジニア認定	★★☆☆☆	初級エンジニア	Pythonの基本
データサイエンティスト検定	★★★☆☆	分析担当・コンサル	データ分析、統計、ビジネス
統計検定2級	★★★☆☆	分析担当・エンジニア	統計的な判断力
E資格	★★★★☆	AI・機械学習エンジニア	深層学習の理論と実装
統計検定準1級以上	★★★★★	データサイエンティスト	高度な統計解析

ポイント

G検定はAI全般の理解、E資格は深層学習の専門性を証明する資格である。2026年は、これらに**クラウドAI資格や実装成果を組み合わせる**取得方法が現実的な選択となる。

出典：一般社団法人日本ディープラーニング協会（JDLA）資格情報 jdla.org/certificate/｜難易度★は本資料が出題範囲・想定対象者から相対評価した独自区分（解釈）

クラウド・生成AI資格の比較

クラウド資格は基礎（Fundamentals／Practitioner）から本番実装（Professional）まで階層化されており、2026年は知識試験に加え**実シナリオでスキルを証明する「Applied Skills型」**が増加している。

資格	難易度	向いている人	特徴
AWS Certified AI Practitioner	★★☆☆☆	非エンジニア・初学者	AI・ML・生成AIの基礎
Google Cloud Generative AI Leader	★★☆☆☆	管理職・企画職	生成AIのビジネス活用
Microsoft Azure AI Fundamentals	★★☆☆☆	初級IT人材	Azure AIの基礎
Microsoft Applied Skills	★★〜★★★	業務担当・開発者	特定業務の実践課題型
Azure AI系 Associate資格	★★★★☆	AI開発者	AIアプリ・エージェント実装
AWS Generative AI Developer Professional	★★★★★	上級開発者	Bedrockによる本番AI実装
Google Professional ML Engineer	★★★★★	MLエンジニア	機械学習基盤の設計・運用

傾向①　実践課題型（Applied Skills）の拡大

知識を問う試験だけでなく、実際のシナリオに沿ってスキルを証明する形式が増えている。学習が業務課題の解決手順とそのまま重なる。

傾向②　生成AIの本番実装を問う上級資格

AWSでは生成AIを本番環境へ実装する上級資格が展開されている。PoC止まりではない運用能力の証明が求められる。

出典：Microsoft Learn Applied Skills（learn.microsoft.com/credentials/applied-skills/）、AWS Certification（aws.amazon.com/certification/）｜難易度★は本資料の独自相対評価（解釈）

職種別・おすすめ資格ロードマップ

いずれの職種も「入門資格で共通言語を得る → 職種特化の資格で専門性を示す → **実装・改善実績で証明する**」という3段階の順序が共通であり、最終段は資格ではなく成果物で構成される。

非エンジニア・一般社員

- 生成AIパスポート
- ▼
- JDLA Generative AI Test
- ▼
- **AWS AI Practitioner／Azure AI Fundamentals**

営業・マーケティング・企画職

- G検定
- ▼
- Google Cloud Generative AI Leader
- ▼
- **AI活用事例・業務改善実績の作成**

管理職・経営者

- 生成AI基礎資格
- ▼
- AI Transformation Leader系資格
- ▼
- **AIガバナンス・投資対効果の学習**

ITエンジニア

- Python基礎（Python 3 エンジニア認定）
- ▼
- Azure／AWS／Google CloudのAI資格
- ▼
- **RAG・AIエージェントの実装**

データサイエンティスト

- 統計検定2級
- ▼
- データサイエンティスト検定
- ▼
- E資格
- ▼
- **ML Engineer系資格**

AIコンサルタント・PM

- G検定
- ▼
- クラウドAI基礎資格
- ▼
- AIガバナンス
- ▼
- **要件定義・効果試算・導入実績**

提案：本ロードマップは職種別の到達目標から本資料が構成した推奨順序（提案）／青枠は資格ではなく実務成果物のステップを示す

2026年に評価される実務スキル

評価基準は「AIが使える」ではなく**「安全に、既存業務へ組み込み、継続運用できる」**ことであり、ビジネス側の業務設計スキルと技術側の連携・運用スキルを対で備える必要がある。

ビジネス領域 — 業務設計・効果測定

- AIを導入する業務の選定（対象業務の切り出し）
- As-Is／To-Be業務整理
- 投資対効果・削減工数の試算
- プロンプトテンプレートの設計と標準化
- AI利用ガイドラインの作成

技術領域 — 実装・連携・運用

- Python・SQL
- OpenAI／Azure OpenAI／GeminiなどのAPI
- RAG・ベクトル検索
- MCP・外部システム連携
- AIエージェント設計
- 評価データセットと精度検証
- ログ監視、権限管理、コスト管理

2026年の重要ポイント

「AIが使える」ではなく、**安全に、既存業務へ組み込み、継続運用できること**が評価基準になる。

解釈：資格試験の出題範囲（実装・ガバナンス領域の拡大）および実務要件から本資料が整理／提案：資格学習と並行して上記スキルを成果物化する

資格だけでは評価されにくい理由

資格保有者に生じやすい課題は「用語は説明できるが業務課題とAI機能を接続できない」点に集約されるため、**資格＝基礎知識の証明、実績＝仕事で使えることの証明**として明確に役割を分けて提示する必要がある。

資格保有者に起きやすい課題

- AI用語は説明できても実装できない
- 業務課題とAI機能を結び付けられない
- APIやデータ連携を理解していない
- AIの回答精度を評価できない
- 導入後の運用・改善まで設計できない

評価される実績の例

- 議事録作成をAIで自動化
- 社内文書を検索できるRAGを構築
- Excel集計をPythonや生成AIで効率化
- CRMへの商談情報登録を自動化
- AIエージェントで問い合わせ対応を省力化
- AI利用ガイドラインとチェック体制を整備

整理の考え方

資格は**「基礎知識の証明」**、実績は**「仕事で使えることの証明」**。両者を対で示すことで初めて評価対象となる。

解釈：資格の出題範囲（知識中心）と実務要件（実装・運用）の差分から本資料が整理／提案：実績例は自組織の定型業務から1件選定し、小規模に着手する

難易度別・6か月学習プラン

6か月を「基礎（1〜2か月）→ 業務活用（3〜4か月）→ 実装・成果物（5〜6か月）」の3段階で設計することで、**資格取得とポートフォリオ作成を同一の学習曲線上に載せられる**。



1〜2か月目：AI基礎

- 生成AIと機械学習の基本
- プロンプト作成
- 情報漏えい・著作権・ハルシネーション
- 入門資格を1つ取得

3〜4か月目：業務活用

- Excel・資料作成・議事録でAIを使用
- 自社業務の改善テーマを選定
- 削減時間と品質を測定
- G検定・クラウドAI基礎資格に挑戦

5〜6か月目：実装・成果物作成

- APIまたはノーコードツールとの連携
- RAGまたはAIエージェントを試作
- 設計書・構成図・評価結果を作成
- ポートフォリオとして整理

目標	学習時間の目安（仮定値）
入門資格	**10〜30時間**
G検定・クラウド基礎	**30〜80時間**
実践型クラウド資格	**80〜150時間**
E資格・上級AI資格	**150〜300時間以上**

仮説：学習時間は本資料の想定に基づく目安（仮定値）であり、経験や前提知識により大きく異なる／提案：3段階を並行させず順次進める

まとめ・資格選びチェックリスト

資格選定は「目的・職種との整合」「知識資格と実践資格の組合せ」「基礎技術とガバナンスの習得」「小規模でも実績を作る」の5原則に集約され、**最終判断は成果物の有無で決まる**。

2026年のAI資格選び 5原則

1. 目的と職種に合った資格を選ぶ
2. 知識資格と実践資格を組み合わせる
3. Python・SQL・APIの基礎を身につける
4. AIガバナンスとセキュリティを学ぶ
5. 小さくても実際の業務改善実績を作る

最終チェックリスト

- [ ] AIを使って何を実現したいか決まっている
- [ ] 自分の職種に必要なスキルが分かっている
- [ ] 資格取得後に作る成果物を決めている
- [ ] AIの精度を検証する方法を理解している
- [ ] 情報漏えいなどのリスクを説明できる
- [ ] 資格名だけでなく実務経験を提示できる

結論

2026年は「資格を持っている人」より、**「資格で得た知識を業務改善やAI実装に転換できる人」**が評価される。

提案：5原則・チェックリストは本資料が全体分析から導出した推奨事項／詳細な資格要件・試験範囲は各認定機関の公式情報を参照のこと

お問い合わせ先

本資料の内容、AI人材育成・資格取得計画の設計、AI導入に関するご相談は下記までご連絡ください。

お問い合わせ先

会社名

Start Challenge Consulting co., ltd.

メールアドレス

info@startchg.com

担当

平出

Start Challenge
Consulting co., ltd.
挑む力が、世界を照らす

ご支援できること

職種別スキルマップの設計／資格取得ロードマップの策定／AI業務改善テーマの選定と実装支援

本資料の無断転載・複製を禁じます。／CONFIDENTIAL — 社外秘